

《地域の皆さまに信頼され、 ご安心いただける発電所を目指してまいります》



女川原子力発電所長
若林 利明

発電所員・構内協力企業社員が「チーム女川」として「心をひとつに」日々の業務にあたってまいりました。

今後とも、地域の皆さまに信頼され、ご安心いただける発電所を目指し、気持ち新たにまい進してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域の皆さまにおかれましては、日ごろより女川原子力発電所の運営にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、11月27日に開催された原子力規制委員会において、女川2号機の「原子炉設置変更許可申請書」に関する「審査書案」が取りまとめられ、設置変更許可に向けた一つの大きな節目を迎えることができました。

また、女川1号機については、同7月29日に「廃止措置計画認可申請書」を原子力規制委員会に提出し、現在、同委員会による審査に適切に対応しているところです。

このように、昨年は当発電所にとっても大きな動きのある1年でしたが、大活躍したラグビー日本代表のスローガン「ONE TEAM」のように、

《発電所員より～新年の抱負～》



土木建築部 建築グループ
熊谷 高博(岩手県出身)

私が所属する建築グループでは、女川2号機の再稼働に向け、発電所構内の建物全般に関する安全対策工事を実施しています。

具体的には、万が一、防潮堤を越える津波が発生した場合でも原子炉建屋内への浸水を防ぐ水密扉の設置工事や、大規模な原子力災害が発生した場合の現地指揮本部となる緊急時対策建屋の建設工事などを進めています。

また、新たに設置する設備や建物だけでなく、発電所を安全に保つためには既存の建物の点検や維持管理も非常に重要であり、構内協力企業の皆さんと一緒に取り組んでいます。

発電所を安全に保ち、今後の安全性を高めていくという私たちの日々の仕事が、地域の皆さまのご安心につながることを誇りに思い、今年も一つひとつの業務にしっかりと向き合って取り組んでまいります。

《「こんにちは訪問」を実施しました》



女川2号機の新規制基準適合性審査の状況などを説明

12月2日から20日にかけて、地域の皆さまへ発電所の状況をご説明しながら、ご意見などをお聴きする対話活動「こんにちは訪問」を実施しました。

1994年の開始から36回目となる今回は、発電所員延べ約200人が、女川町と石巻市牡鹿半島部の約3,900戸を訪問し、11月27日に開催された原子力規制委員会に

おいて、女川2号機の新規制基準に関する「原子炉設置変更許可申請書」についての「審査書案」が取りまとめられたことや、これまでの審査の進捗を踏まえさらに強化することとしている安全対策工事の内容などについて説明しました。

地域の皆さまからは、「原子力発電所は何よりも安全が第一、地元の人たちが安心して暮らせるようしっかりと取り組んでほしい」、「安全対策工事の状況を自分の目で見てみたい」などのご意見をいただきました。

皆さまからいただいた貴重なご意見は、今後の発電所運営に生かしてまいります。

これからも地域の皆さまにご安心いただけるよう、安全を最優先とした発電所運営に取り組むとともに、安全対策工事の状況などについて丁寧に説明してまいります。



地域総合事務所
千葉 眞樹(女川町出身)

《女川1号機の廃止措置計画について紹介します》

シリーズ② 「汚染状況の調査」について

女川1号機の廃止措置は、全体工程（34年）を4段階に区分して実施する計画としており、当社は、現在、廃止措置計画認可に関する原子力規制委員会の審査を受けています。

今回の発電所だよりでは、第1段階で必要となる作業の一つ「汚染状況の調査」について紹介します。

廃止措置の全体工程 34年				
各段階の実施区分	第1段階 8年 (認可～2027年度)	第2段階 7年 (～2034年度)	第3段階 9年 (～2043年度)	第4段階 10年 (～2053年度)
	解体工事準備期間	原子炉領域周辺設備解体撤去期間	原子炉領域設備等解体撤去期間	建屋等解体撤去期間
	燃料搬出			
	汚染状況の調査			
主な作業		放射線管理区域内の設備(原子炉領域以外)の解体撤去		
	原子炉領域の安全貯蔵		原子炉領域の解体撤去	
				建屋等の解体撤去
	汚染の除去			
	放射線管理区域外の設備の解体撤去			
	放射性廃棄物の処理処分			

解説 汚染状況の調査は、廃止措置に携わる作業員や周辺公衆の被ばく量を低減すること、および放射性廃棄物の発生量を詳細に評価することを目的に実施するもので、女川1号機の各設備に残る放射性物質の種類や濃度、分布の状況を確認し除染範囲などを選定します。



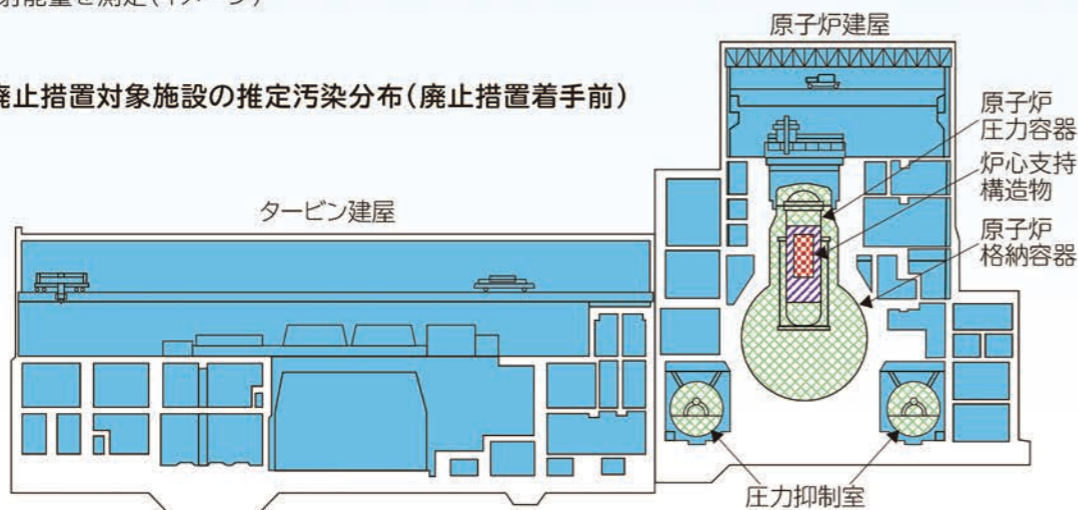
配管に残る放射エネルギーを測定(イメージ)

具体的には、他社プラントにおける放射能汚染の評価結果をもとに、女川1号機の設備の配置状況などを加味して汚染分布を解析します。

また、原子炉内の機器や配管、建屋コンクリートの表面など、いくつかの代表的なポイントにおいて放射性物質のサンプルを採取・分析し、その結果を踏まえてさらに再解析を行うことで、汚染分布の精度を高めることとしています。

主な廃止措置対象施設の推定汚染分布(廃止措置着手前)

- 低レベル放射性廃棄物のうち放射能レベルの比較的高いもの
- 低レベル放射性廃棄物のうち放射能レベルの比較的低いもの
- 低レベル放射性廃棄物のうち放射能レベルの極めて低いもの
- 放射性物質として扱う必要のないもの



《「東北電力クリスマスドリーム」を開催しました》

12月15日、当発電所は、女川町生涯学習センターにおいて、「東北電力クリスマスドリーム(女川会場*)」を開催しました。

当日は、女川町内の小学校1年生から中学校1年生までの子どもたち17名が、港町に打ち上げられたマンボウを助けようと地元に残るマンボウ伝説をたどって冒険するストーリーを描いたオリジナルミュージカルを熱演しました。

元気いっぱいに歌や踊りを披露し、これまでの練習の成果を出し切った子どもたちに、来場者から大きな拍手が送られました。



力強く演技する子どもたち

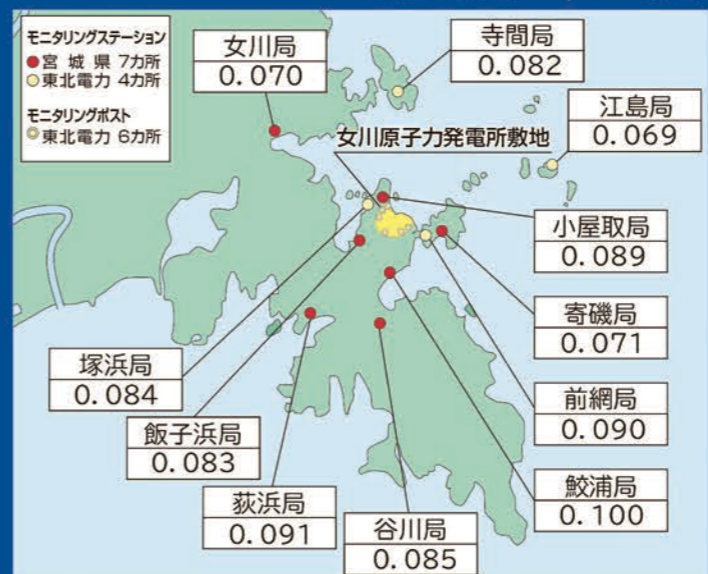
※石巻会場(11月9日開催)の様子は発電所だより12月号をご覧ください。

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.049マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(12/31現在)



単位:マイクロシーベルト/時

(参考)モニタリングポストの最小値と最大値*3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	測定値 (μSv/h)
2011年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年3月13日	1.8~21*4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年4月1日	0.063~0.098
2013年4月1日	0.055~0.076
2018年4月1日	0.037~0.048
2019年4月1日	0.036~0.051
2019年12月1日	0.035~0.048
2019年12月31日	0.034~0.049

単位:マイクロシーベルト/時

- *1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。
- *2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- *3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。
- *4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。